



「人とかわかるのが好きなので、接客の仕事がしたかったです」と話してくれたのは、今年の3月からホクレンおむ給油所に勤務している、清水ゆうかさん（20歳・新日の出町）。雄武町出身。

清水さんの主な仕事は給油作業。「燃料の流量を調整して車のタンクから漏れないようにしたり、窓をふく時にベルトなどの金具で車に傷をつけないようにしたり、常に気を付けています」。

就職したばかりで、お客さまの顔を覚えるのが大変と話す清水さんですが「気さくに声を掛けていただけ

ホクレンおむ給油所勤務

清水ゆうかさん

お客様と常に笑顔で接したい

「今は職場の上司に助けてもらうことが多いので、任せられた仕事はしっかりできるように心がけています」と感謝の気持ちを話して、日々仕事に臨んでいる。

「方も多く、とても励みになっていきます。元気を取りえに、笑顔を取れず接客するようになりたくない。人の喜ぶ顔が好きなので、お客さまに満足していただけるようなサービスを提供し、何事にも全力で挑戦していきたい」とびきりのスマイルで意気込みを見せてくれた。

◆好きな男性のタイプ
一緒にいて楽しくて、落ち着いている人

北海道知事優勝旗争奪全道民謡決勝大会出場

山崎 琴音さん（潮見町）

「目標は全道大会入賞」



「今年こそは全道大会に出場したかった」。4月21日、名寄市で開催された道北地区民謡大会（幼年の部）で「シャンシャン馬道中唄」を歌い優勝。8月4日に苫小牧市で開催される「北海道知事優勝旗争奪全道民謡決勝大会」への切符を手にした山崎琴音さん（雄武北誠会所属・雄武小4年）。

昨年、一昨年と地区大会で2連覇を果たしたものの規定の点数には届かず、惜しくも全道大会への出場権を逃し

た。「本番では自然に声が出ました。結果発表のときは緊張しすぎて足が震えたけど、やっと全道大会が決まってとっってもうれしかったです」。3年越しの全道大会出場に笑顔を見せる。

民謡を始めたのは小学1年生のとき。山崎さんの母と北誠会で民謡の指導者をしている新山祥子さんが同じ職場であったことがきっかけ。初めは民謡独特の発声ができずに練習中涙ぐむこともあった。

「練習場では週2回、家でも毎日歌って、ちよつとずつ声が出るようになってきました。今はもつとうまく声を出すのと、ひとつひとつの言葉をはっきり言えるように気を付けて練習しています」。

舞台慣れするため、敬老会や町内外の福祉施設などでも自慢の歌を披露。「舞台発表の場数を踏むたびにひと回りずつ大きくなっている。初めての全道大会でまた一つ成長を見せてくれると思う。民謡は一つの歌を何十年と歌いこみ、一生をかけて自分の歌にしていくもの。まじめで努力家の彼女がどんな風に自分の歌を完成させていくのか楽しみ」と、指導者の新山さんは将来への期待を込める。

「全道大会では練習どおりに歌えたらいいと思っています。初めての出場だけだと入賞目指してがんばります」。控えめに意気込みを話す彼女は、今日も練習に励んでいる。

クローズアップ
まちのひと

小さな美術館

豊丘小学校

↑ 「好きなお店」
佐々木 琉音さん（5年）

↑ 「凹凸の町」
小川 優斗くん（5年）

↑ 「お祭り」
橋本 南海さん（5年）

→ 「未来のマンション」
大和田 果江さん（5年）

わんぱくキッズ

なわよし
おやこきょうしつ

～子育て支援センター～

ながい
ゆうすけくん

かとう
ゆりちゃん

よこた
ゆういちくん